熊大教育実践研究　第29号，117－129，2012

共同作業による絵画制作の実践２
―神社絵馬修復―

松　永　拓　己

Practice of the Pictures Work by Bilateral Work 2
―Shrine Votive Picture Restoration―

Takumi MATSUNAGA

Ⅰ　はじめに

2010年（平成22年）５月，松永はNPO法人きらり水源村より，神社絵馬修復の依頼を受ける．

依頼内容は，この地区にある四丁分菅原神社が50年に一度の遷宮祭を迎えるにあたり2010年10月までに神社絵馬の補修をお願いしたいとのことであった．大小８枚の絵馬は，絵具の剥離，基底材の亀裂等があり絵柄は不明瞭な状態で，その補修を学生にして欲しいとの依頼であった．

2010年（平成22年）10月，松永は阿蘇長野神社絵馬の修復の依頼を受ける．大作２枚の絵馬であり，状態，内容は前述と同様であった．

2011年（平成23年）３月，松永は菊池市小原地区の小原菅原神社の絵馬修復の依頼を受ける．大小５枚の絵馬であり，状態，内容は前述と同様であった．

本稿では，以上の３回の絵馬修復の取り組みについて，学生達と行った共同絵画制作の実践について記し検証し意義を探る．

Ⅱ　絵馬修復考

Ⅱ―１　絵画修復について

第２代内閣総理大臣黒田清隆内閣下の大日本帝国において，森有礼文部大臣刺殺，大日本帝国憲法発布等にまつわる動揺は，来る日清戦争，日露戦争へと続く風雲急の時代の様相を呈していた．

時代の中で，地方の神社には数々の絵馬が奉納されている．その時代の気運を感じさせ，時代の動乱と民衆の気持ちを慮れる．今回の，古くは明治22年作の絵馬から日露戦争にいたる作品群からは，ある種の感銘を受ける．

多くの神社絵馬は失われつつある．展示，保管状態の限界があり，外気に曝され，風雨に濡れることもある展示作品であり，画面が消えかかっていることは，その性格上仕方ないことである．少しでも修復を行いながら，絵柄が完全に消え去る前に，残しておきたいものである．

絵画修復は医療と同じような行為である．怪我や病気に対して適切な処置を施し，治癒に向かわせるように，作品に対して敬意と最大の配慮をしながら，現在の状態と過去の完成時の完全な状態を推測して比べ，少しでも完成時に近い状態になるように処置を施す．処置を間違うと，作品の状態は悪化する．

絵具は顔料と定着剤（結合材）から成り，基底材に定着している．定着材の能力によって耐久性は異なる．絵画作品の色は顔料の色であるが，定着剤の質によって違って見える．また，天然顔料自体は変色しないが，定着材の経年変化により作品は変化して見える．基底材は気候，温度，湿度，外圧によって影響を受け，反り，収縮，亀裂等が発生する．他にも大気中の粉塵や汚染物の付着による画面の汚れや，虫食いによる損傷もあり，永遠に完成時の状態であることは適切な管理下にあらねば困難である．

また，完璧な保管を行っていても，移送時の外圧や，気候の変化，空輸時の気圧の変化等による損傷にも最善の配慮が求められる．

損傷のある重要な作品は，時間と費用と適切な場において，場合によっては長期に亘って修復がなされる．

Ⅱ―２　共同作業による修復活動について

修復には程度によるが，時間と労力が必要である．慎重な作業と，結果を求められる．

今回の神社絵馬修復は，学生に求められたものであり，授業や研究の合間をぬったボランティア活動として作業を依頼された．作品数も多く，果たして出来るのか熟考したが，現状の絵馬の劣悪な状態と，このままでは，絵馬の損傷が進み，全く見えなくなってしまうことが気がかりという地域の方々の強い思

＊ 熊本大学教育学部美術科

いと，作品が失われてしまうことへの失望を考え今出来うる最大のことで対処することとした．

修復方法は，可視光線観察調査による補彩で，画像を甦らせる処置を施し，基底材の亀裂に対しては裏面に補材を張り付けることで対処することとし，全面的な移し替えや，不明確な部分の加筆は行わないことを方針とした．これらの絵馬の劣化は絵具層の剥落と基底材の亀裂が原因であり，表面の汚れや外的破壊による損傷はあまり見られない．よって，不可視光線である紫外線や赤外線による絵画内部からの情報は期待できず，また亀裂は発生しているものの，基底材である板はまだ十分支持体として使えるものであるので，時間的費用的制約下において，現状として，出来る限りの対応として計画した．

短期間の学生による絵馬修復は，多数の作品を短時間で対処するために，選抜した学生による修復会場を借りた泊まり込みによる活動とした．

基本的には，１枚の作品を複数（２名以上）であたり，落射光による，または斜光線照射により，画面の確認を複数で慎重に行う手法を採った．作品の調査，作品の洗浄，剥落防止の処置，そして，画像の分析，加筆補彩の手順で，時間の許す限り復元していく．

Ⅲ　四丁分菅原神社絵馬修復

Ⅲ―１　修復作業の背景

2010年（平成22年）５月，NPO法人きらり水源村より菊池の四丁分菅原神社における10月に取り行われる50年に１度の遷宮に際し，神社内の絵馬の補修について連絡を受ける．

大小８枚の絵馬の補修を大学生にして欲しい旨の内容であったが，これは，地元の方々の総意であり，この地区の願ということであった．

現地調査を行い，現状と補修内容の確認を行った．

Ⅲ―２　修復作業の概要

絵馬修復は，大学の夏季休業中に集中して行い，修復作業は広い空間が必要であるため，きらり水源村の施設である「きくちふるさと水源交流館」（旧菊池東中学校）の一室を借り，同施設にて宿泊しながらの５日間での修復計画を立てる．

四丁分菅原神社から「きくちふるさと水源交流館」までの絵馬の移送や，取り外しについては菊池市四丁分菅原神社遷宮祭実行委員会が行い，修復作業場は公開し，地元の方々との交流を含め，修復活動を行うこととした．

この修復作業に関わる大学生は，熊本大学教育学部美術科の３年生８名である．（藤原みなみ，荒巻里江，有田美香，岩本望来，中村友麻，西田真理，平川敦子，浦由有子）

神社の概要

神社名：四丁分菅原神社
鎮座地：菊池市大字四丁分2807
祭神：菅原道真神
創立：元文３年

絵馬の概要

①敦盛図【仮称】
奉納年：明治22年（1889年）
サイズ（縦×横）：1502×1895mm

②賤ヶ岳の戦い図【仮称】
奉納年：明治22年（1889年）
サイズ（縦×横）：1497×2710mm

③日露戦争図【仮称】
奉納年：明治（不明）
サイズ（縦×横）：1340×1750mm

④鶏犬図【仮称】
奉納年：明治23年（1890年）
サイズ（縦×横）：1282×750mm

⑤龍図【仮称】
奉納年：不明
サイズ（縦×横）：1250×640mm

⑥虎図【仮称】
奉納年：明治22年（1889年）
サイズ（縦×横）：1240×660mm

⑦武者図【仮称】
奉納年：明治27年（1894年）
サイズ（縦×横）：895×1327mm

⑧天の岩戸図【仮称】
奉納年：明治26年（1893年）
サイズ（縦×横）：755×890mm

Ⅲ―３　修復過程

10月の遷宮祭に向けて，５月から９月までの５カ月間で完成させるために，調査，日程調整，修復計画立案，大学生の募集，地元の方々との交流計画を早急に綿密に行った．

１）日程

平成22年５月14日（金）
NPO法人きらり水源村（小林事務局長）より遷宮祭にむけての絵馬の補修の打診を受ける．

平成22年５月28日（金）
現場確認に四丁分菅原神社訪問（松永）．
NPO法人きらり水源村職員の方々および菅原神社遷宮祭実行委員会の方々と現状確認を行い，補修の

内容を確認．検討を行う．

平成22年６月１日（火）

実施計画立案に入る．大学生の募集．

平成22年８月12日（木）

【修復作業１日目】

８：00　熊本大学出発
９：30　きくちふるさと水源交流館着
10：00　四丁分菅原神社着
　　神事
　　８枚の絵馬取り外し・移送
11：30　きくちふるさと水源交流館着
　　表面の汚れ掃い
　　絵馬の現状記録写真撮影
13：00　昼食
14：00　絵馬の表面へ絵具の剥落防止材塗布
　　乾燥
15：00　制作開始．画面調査．
　　明確な部分と，不明確な部分の分析
　　不明確な部分における線探し
17：00　地元の方々との交流１
　　この日取材があったNHKニュース
　　（18：15～放送）を視聴し歓談．
19：00　夕食
20：00　制作
23：00　入浴
24：00　就寝

平成22年８月13日（金）

【修復作業２日目】

７：30　起床
８：00　朝食
９：00　制作開始．線探し．
12：00　昼食
13：00　制作
15：00　第１回目の１泊２日の修復日程終了

平成22年９月２日（木）

【修復作業３日目】

８：00　熊本大学出発
９：40　きくちふるさと水源交流館着
10：00　制作
　　線探しが限界に来たら色探しに移り着彩を開始する．その際，創作は交えず，形を確認できたものを史実に基づく形体の分析を通して，文様や鎧兜等を明確に描き起こすようにする．
12：00　昼食
13：00　制作
19：00　夕食
20：00　制作
23：00　入浴・就寝

平成22年９月３日（金）

【修復作業４日目】

７：30　起床
８：00　朝食
９：00　制作
12：00　昼食・休憩（菊池渓谷）
15：00～18：00　制作．地元の方々参加．
18：30～19：50　地元の方々との交流２
　　学生から制作の様子報告．
　　地元の方から絵馬にまつわる詩吟の披露等．
　　NHK，RKK取材ニュースの視聴歓談．
20：00　夕食
21：00　制作
23：00　入浴・就寝

平成22年９月４日（土）

【修復作業５日目】

７：30　起床
８：00　朝食
９：00　制作
12：30　昼食
13：15　制作
15：00　解散式
15：30　制作
17：00　後片付け
17：30　帰校

平成22年10月17日（日）

10：00～12：00　四丁分菅原神社遷宮祭参加

２）作品

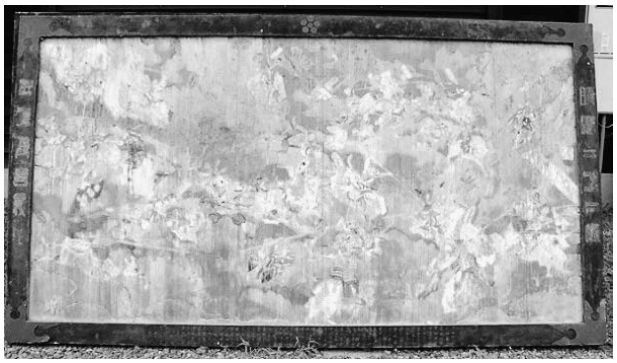
①敦盛図【仮称】

（図１）修復前

（図２）修復後

本作品は平家物語の，平敦盛と熊谷直実の須磨の浜の場面であることが判明した．平家と源氏の旗紋が明瞭に残っていた作品である．

②賤ヶ岳の戦い図【仮称】



（図３）修復前

（図４）修復後

本作品は合戦図であることは分かったが，当初は特定出来なかった．調査していく内に，白い曲線が多々発見され，滝であることが分かり，切り立つ山での合戦場面であることが判明．さらに，左上部に羽柴秀吉の千成り瓢箪の馬印が明瞭となり，中央部に加藤清正の家紋が見出され戦の場面が特定された．

③日露戦争図【仮称】

（図５）修復前

（図６）修復後

当初，制作年が不明な本作品は，他の作品同様，明治22年作と判断して明治初期の国内戦争を想像したが，描き出す内に，兵士の制服や，要塞の旗がロシア軍のものであることが分かった．

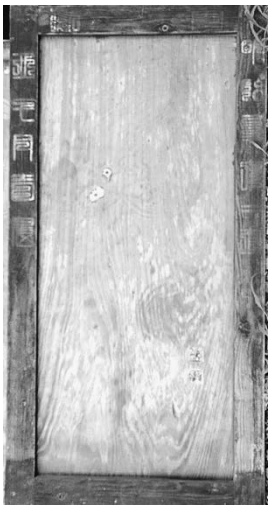
④鶏犬図【仮称】

（図７）修復前

（図８）修復後

比較的，損傷の少ない作品であるため，補彩を施す処理とした．

⑤龍図【仮称】



（図９）修復前

（図10）修復後

画面左中央部に並ぶ白い２つの胡粉跡以外は絵具の痕跡は見られなかった．斜光線照射により線の描写跡が微かに見られ，跡をなぞり描き起こすと，龍の姿が出現してきた．

⑥虎図【仮称】

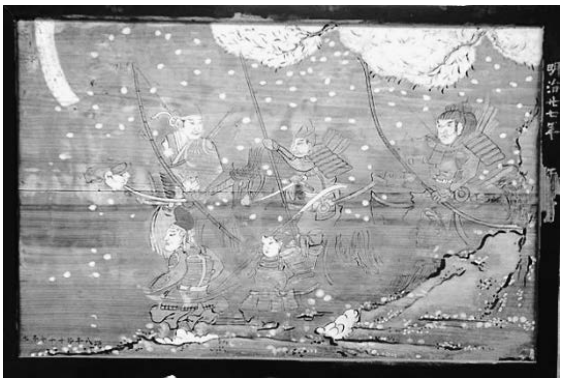
（図11）修復前

（図12）修復後

比較的，損傷の少ない作品であるため，補彩を施す処理とした．

⑦武者図【仮称】

（図13）修復前



（図14）修復後

絵具がかなり剥げ落ち，色の特定はできなかったが，３人の騎馬武者が桜の木の下を右から左にゆっくりと歩いている作品であることが分かった．

⑧天の岩戸図【仮称】

（図15）修復前

（図16）修復後

比較的，損傷の少ない作品であったが，色彩がかなり落ちており，残った色から判別して補彩を施す処理をした．

３）報道記録・表彰

・平成22年８月12日（木）18：15TV放送　NHK
・平成22年８月13日（金）TV放送　RKK
・平成22年９月５日（日）11：45TV放送　RKK
・平成22年９月６日（月）熊日新聞社
　　絵馬復活色鮮やか　菊池市・菅原神社
・平成22年10月20日（水）18：15，20：45TV放送
　　NHK
・熊本大学広報誌　熊大通信vol. 39 2011winter
　美術科の学生が地域貢献　地域の宝を見つめ直す
・平成23年３月15日（火）
学生表彰　絵馬修復プロジェクトチーム　熊本大学

Ⅳ　阿蘇長野神社絵馬修復

Ⅳ―１　修復作業の背景

2010年（平成22年）10月，阿蘇長野神社より神社内の絵馬の補修について連絡を受ける．

大作２枚の絵馬の補修を大学生にして欲しい旨の内容であった．現地調査を行い，現状と補修内容の確認を行った．

Ⅳ―２　修復作業の概要

絵馬修復は，大作２作品を大学に持ち帰り，２作とも損傷が大きいため，長期間にわたる修復計画を立てる．

阿蘇長野神社から熊本大学までの絵馬の移送や，取り外しについては阿蘇長野神社が行い，移送後，熊本大学内の第２絵画室で，少人数による長期間に及ぶ修復活動を行うこととした．

この修復作業に関わる大学生は，熊本大学教育学部美術科の３年生３名である．（岩本望来，西田真理，平川敦子）

神社の概要

神社名：阿蘇長野神社
鎮座地：阿蘇郡南阿蘇村長野525
祭神：健磐龍命・速瓶玉命
創立：天保５年

絵馬の概要

①武者戦之図【仮称】
奉納年：明治17年（1884年）
サイズ（縦×横）：1100×1720mm

②武者拝謁図【仮称】
奉納年：明治17年（1884年）
サイズ（縦×横）：1100×1720mm

Ⅳ―３　修復過程

１）日程

平成22年10月22日（金）
阿蘇長野地区総代（長野氏）より阿蘇長野神社の絵馬補修について打診を受ける．

平成22年10月23日（土）
現場確認に阿蘇長野神社訪問（松永）
現状確認を行い，補修の内容を確認．検討を行う．

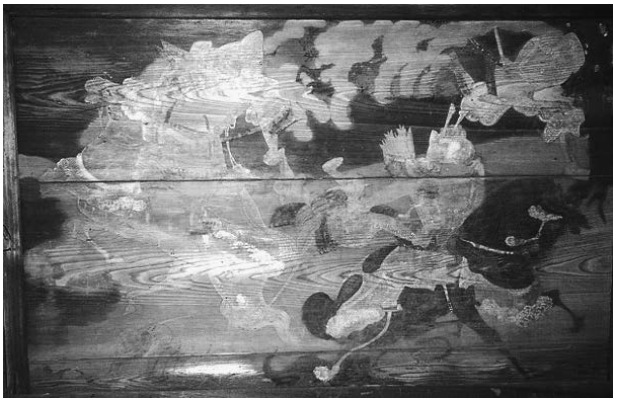
平成23年２月21日（月）
実施計画立案

平成23年３月14日（月）
９：00～10：20　阿蘇長野神社神事
　　絵馬取り外し・移送
11：30　熊本大学着
13：00～14：00　絵馬裏面粉塵落とし

以降修復開始
画面への斜光線照射により，線および絵具の痕跡を見つけ，描き起こす．絵具の痕跡から，色を選別し，着彩を行う．また，制作中，金の痕跡を発見し，武者の兜に純金箔を使っていることが判明し，金箔を使用することに計画追加変更を行う．
平成23年６月28日（火）
修復完了
平成23年６月29日（水）
10：00　阿蘇長野神社へ移送

２）作品

①武者戦之図【仮称】



（図17）修復前

（図18）修復後

２体の対照的な騎馬武者が描かれた合戦図であった．
中央で髭を蓄えた武者が髪を持って武者を引きずっている大胆な演出が印象的な作品であることが判明した．（伝）田村直入作

②武者拝謁図【仮称】

（図19）修復前

（図20）修復後

当初，本作品は判別不可能と思われた．わずかに右上に直垂姿の２人が描かれていることは推測されたが，調査を進めるうちに，殿上に４枚の書状と中央から右下に多くの鎧姿の武者が座している様子が見出されていった．（伝）田村直入作

Ⅴ　小原菅原神社絵馬修復

Ⅴ―１　修復作業の背景

2011年（平成23年）３月，菊池の小原菅原神社にて取り行われる社殿改築75年期祭に際し，神社内の絵馬の補修について連絡を受ける．

大小５枚の絵馬の補修を大学生にして欲しい旨の内容であった．

現地調査を行い，現状と補修内容の確認を行った．

Ⅴ―２　修復作業の概要

絵馬修復は，大学の夏季休業中に集中して行い，制作場所として菊池市旭志小原地区にある「小原ほたる交流館」を借り，同施設にて宿泊しながらの５日間での修復計画を立てる．

小原菅原神社から「小原ほたる交流館」までの絵馬の移送や，取り外しについては菊池市小原地区の方々が行い，修復作業場は公開し，地元の方々との交流を含め，修復活動を行うこととした．また，今回は地元出身の中学校美術教員も参加し，大学生と中学校教員が共同で行うこととした．

この修復作業に関わる大学生は，熊本大学教育学部美術科の３年生６名，４年生２名である．（大内絵里奈，大塚麻貴子，香月彩，小堀絵美，須藤優雅，村川友梨，工藤明日香，山下志穂）

神社の概要

神社名：小原菅原神社
鎮座地：菊池市旭志小原135
祭神：菅原道真神
創立：明治５年

絵馬の概要

①楠木公親子別れ之図【仮称】
奉納年：明治33年（1900年）
サイズ（縦×横）：1511×1816mm

②天の岩戸図【仮称】
奉納年：明治33年（1900年）
サイズ（縦×横）：1150×1700mm

③喧嘩仲裁図【仮称】
奉納年：明治33年（1900年）
サイズ（縦×横）：1511×1816mm

④楠木正成公行幸迎図【仮称】
奉納年：明治24年（1891年）
サイズ（縦×横）：745×963mm

⑤不明
奉納年：不明

Ｖ―３　修復過程

３回目の修復活動であり，技法や制作における体力・気力の様態も把握できているので，大学の夏季休暇中の５日間を使って，宿泊を伴い集中して行う計画を立てる．調査，日程調整，修復計画，大学生の募集，地元の方々との交流計画を立案．

１）日程

平成23年３月14日（月）
菊池市旭志小原地区区長から，絵馬補修の打診を受ける．

平成23年３月29日（火）
現場確認に小原菅原神社訪問（松永）．
小原地区区長（稗田氏）および地区の方々と現状確認を行い，補修の内容を確認．検討を行う．
以降，実施計画立案．大学生の募集．

平成23年８月24日（水）
【修復作業１日目】
７：00　熊本大学出発
８：30　小原ほたる交流館着
９：00　小原菅原神社着
　　神事
　　５枚の絵馬取り外し・移送
11：00　小原ほたる交流館着
　　絵馬の現状記録写真撮影
　　絵馬観察
12：00　昼食
13：00　絵馬の表面の汚れ落とし
　　絵馬の調査（寸法，技法，等）
　　絵馬画面表面および裏面へ絵具の剥落防止材塗布
　　乾燥
15：00　休憩
16：00　制作開始．画面調査．
　　明確な部分と，不明確な部分の分析．
　　不明確な部分における線探し．
　　この時点で，５枚の絵馬の１枚は，完全に画面が失われていることが判明．板に直接描かれたものでなく，紙を貼り描かれた痕跡を発見し，その紙が完全に剥がれ喪失しており，よって，この１枚について修復は行わないこととした．この板には地元出身の美術教師（稗田朋也氏）が新たに絵馬を制作することとなった．
18：00　入浴．夕食．
20：00　制作．画面調査．
22：30　就寝

平成23年８月25日（木）
【修復作業２日目】
６：00　起床
７：00　朝食
８：00　制作開始．画面観察．線探し．
　　線描き起こし．
12：00　昼食
13：00　制作
15：00　休憩
16：00　制作
17：30　入浴
18：30　地元の方々との交流会・夕食
　　絵馬鑑賞．制作過程説明．
23：00　就寝

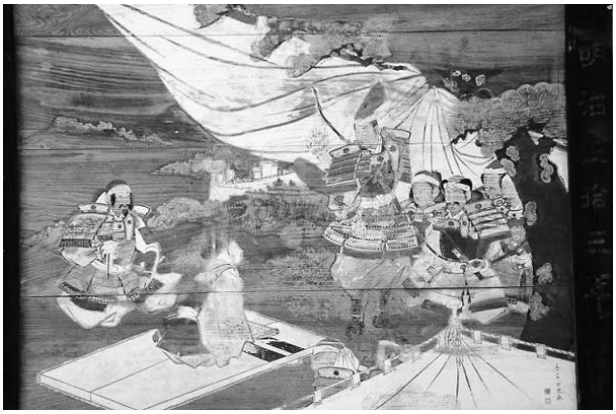
平成23年８月26日（金）
【修復作業３日目】
６：00　起床

７：00　朝食
８：00　制作
線探しが限界に来たら色探しに移り，着彩を開始する．その際，創作は交えず，形を確認できたものを史実に基づく形体の分析を通して，文様や鎧兜等を明確に描き起こすようにする．
12：00　昼食
13：00　制作
15：00　休憩
16：00　制作
18：00　入浴・夕食
20：00　制作
楠木公親子別れ之図【仮称】で，金箔片を確認．
画面の随所に僅かながら金が見られ，この作品において砂子の技法が施されていたことが確認された．よって，この作品は最終段階で砂子を行うことに計画変更した．
23：00　入浴・就寝

平成23年８月27日（土）
【修復作業４日目】
６：00　起床
７：00　朝食
８：00　制作開始．着彩．
10：00　休憩
10：30　制作
12：00　昼食
13：00　制作
15：00　休憩
16：00　制作
18：00　入浴・夕食
20：00　制作．額着彩．砂子．
武士の着物の文様の協議．調査し判別．
24：00　就寝

平成23年８月28日（日）
【修復作業５日目】
６：00　起床
７：00　朝食
８：00　制作
10：00　休憩
10：30　制作
12：00　昼食
13：00　制作
16：00　制作終了．後片付け．清掃．
17：00　閉会行事．記念撮影．
17：20　小原菅原神社参拝
17：30　帰校

２）作品
①楠木公親子別れ之図【仮称】



（図21）修復前

（図22）修復後

菊水の紋と短刀が見出され，楠木公の陣で平伏す若武者と正成公が描かれていた．この作品には修復の途中で金箔片が散りばめられていることが確認され，砂子を施してあることが分かった．また，奉納したのは小原地区の西組衆であることも判明した．

②天の岩戸図【仮称】

（図23）修復前

（図24）修復後

天の岩戸であることは当初から分かったが，絵具の付け方で黄色が散りばめられていることが特徴的な作品であった．小原地区中組衆が奉納したものであった．

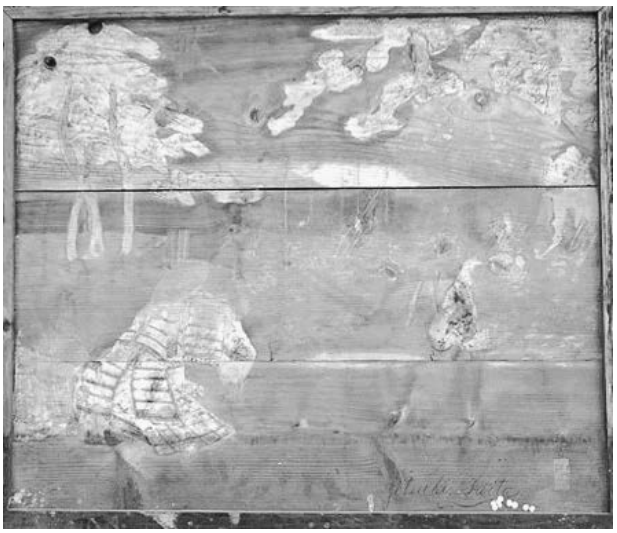
③喧嘩仲裁図【仮称】

（図25）修復前

（図26）修復後

遠景に富士が描かれており，将棋・囲碁を差している場面である．描かれている人物が，北条氏の紋，武田氏の紋，今川氏の紋，斎藤氏の紋等が見られ，戦国時代の有名な武将が多数登場している．架空の場面であり，盤の中央で２人の喧嘩を仲裁している武将がおり，奉納された1900年の時代の気運を感じる．

④楠木正成公行幸迎図【仮称】



（図27）修復前

（図28）修復後

当初，左下で平伏している武者が見えたが，描き進めるうちに，玉座と菊の紋，武者には菊水紋が見出された．

⑤白馬図（新奉納　制作：稗田朋也氏）

（図29）制作前

（図30）制作後

当初，線や絵具を発見しようと調査したが，全く見出されず，右下に紙が剥がれた跡が確認できた．よって，これは紙を貼った基底材の板であることが分かった．本板にこの地区出身の美術教師が奉納のための制作を行った．

Ⅵ　まとめ

絵画作品に永遠はあり得ない．通常，経年変化と劣化は不可避である．石に刻まれた画であれば耐久力もあるが，完全な保管処置がないかぎり劣化はおこる．展示や移送ですらダメージの問題は生じている．

共同作業による絵画制作，神社絵馬修復の３つの実践による地域貢献を挙げたが，１年３カ月にわたる今回の制作は多くの人の協力により成し遂げることができたものである．学生にとっては初めての制作内容であり，創作を交えない慎重な作業を要求され，気力，体力に多分な労力を強いられたボランティア活動であった．共同で制作を行うことは，作品観察と処置の判断を的確にし，自信を持った制作に繋がり，また，気力の面においても，一緒に行うことで，お互いに責任感を持った仕事がなされ，自力を最後まで発揮することとなった．無為に休むことなく夜遅くまで制作を行う様子は地域の方々からも称賛をいただいた．

学生諸君には，地域の方々の期待に答え，新たな達成感を感じながら，経験を積んで，豊かで幅広い見識と技量を身につけて欲しいと願うところである．

絵馬には，奉納された時代や経緯があり，そこで生活されていた方々の思いが包含されている．120年前のその地区で，日本人としての生き方や種々の波乱の中で，山村での農作物豊穣への祈り，兵士として出兵された若者たちへの祈り，絵馬を通して様々な思いを慮る．必ずしも安価とは思えない巨大絵馬であるが風雨等で消え去る運命にある．その中で，地区の方々の熱い思いは学生にも届き，懸命な作業を行っていた．

展示の形態から，また再び修復は必要になることは明白であるが，これも日本の文化の一つの形として，その時代のその地域に生活していた方々の願いを包含したまま，元の通りに神様に奉納させていただいた．更なる，地の豊穣や平和を願いたい．

謝辞

本活動にご協力下さいました，NPO法人きらり水源村の方々，菊池市四丁分菅原神社遷宮祭実行委員の方々及び様々なご支援をいただいた菊池市四丁分地区の方々，阿蘇長野神社総代および地区の方々，菊池市小原地区区長および地区の方々，学生のご支援をいただいた谷口功熊本大学学長，他，関係の皆様に心より感謝申し上げます．

主要参考文献

・『神に捧げた祈りの美　絵馬』，福岡県立美術館，1995
・『絵馬発見　知られざる熊本の遺産』，熊本博物館考古学同好会，2005
・『鹿本郡市の絵馬』，熊本県鹿本郡市文化財保護委員連絡協議会，2003
・『日本画の栞』，吉祥，1997
・西山英雄『日本画入門』，保育社，1969
・クヌート・ニコラウス『絵画学入門』，美術出版社，1985
・クヌート・ニコラウス『絵画鑑識事典』，美術出版社，1990
・『菊池郡市神社誌』，熊本県神社庁，1981

絵馬修復映像記録

（図31）絵馬修復制作（四丁分菅原神社）

（図32）神事（四丁分菅原神社）

（図33）地域への公開制作（四丁分菅原神社）

（図34）膠，顔料，筆等扱いの練習

（図35）粉塵除去作業（阿蘇長野神社）

（図36）絵馬取り外し（小原菅原神社）

（図37）完成の参拝（小原菅原神社）

（図38）作品完成（小原菅原神社）